

繪首
入書

世界都路

亞細亞洲

一

柳田文庫

文庫11

A1837

1



文庫 11
A/837
1

世古

世古可為古也

古也

世古可為古也

世古

航海歌

渺々浩々又茫々。海兮々々水
無量。多少水族波間。嗚。鼉。鼉。鯨。鯨。鮫
龍。鯉。鯨。鯢。怒濤如山。魚吞舟。蜃
氣吐出金玉樓。或為瀟湘洞庭
水。或為蓬萊瀛洲。秦皇曾求

世界部格

○序

48-7738

仙家藥方士不還堪大噓。即今莫道海難測。直自南極至北極。

題世界都路

大日本 總生寬

菱潭忠書



今の母年行と経る
とさく結をの枝
題少そよ地心
越る理

傳位様

國
かき今と結をさよふる方
並に章和

港入結舟の多ふ里を君代の
由りなむく志すあり今結

難三葉珠

空の海を波にけあはるる

これやそれと天の岩も

涙筆鐘

おはほほ結直れよのえ神の世の

まねくは海やうなるひと

鏡道

君の世をたのむ國もあはれ

まねくは海やうなるひと

火輪車

木の葉をてはるるまはれとまはるる

おれの敷くまはるるまはるる

瓦形紙

おのろくはまはるる大路のこも

あまのつらきまはるるあまのつらき

燈明堂

海をるる舟のまはるる

まはるるまはるるまはるる

地球全 國一觀

古雪



世界都路緒言

我大皇國既文明之概臨之開化之端

進んとして為るの今日海島孤立の陋習を一洗

大地球一和の交りて急務とせり蓋世界各

國と併立せんこと。生靈の知識を弘むる有り

其知識を弘むるや文學如可きあり。然りと

雖人子榮枯窮達あり。時を得て富る個の意

隨ふて行ひ時を得て富る個の意の如く

あらざりて行ふ事能く造化の禍福を二途

世界都路緒言

卷一

序四

とせよ。亦一大機關と雖、凡願を以てせよ。又嘆
 むべき所あり。是他か。我國民從來固陋の弊
 風より富と海外小求むるを思ひ、只管内地
 奔走し。小利限有が故あり。夫貪生許多か
 ば、學徒些少く。學バざれば、美知覺を開く。至
 らん。江湖上億萬の生徒。天工神作からざるハ
 ち。と雖、學バざるハ玉の琢がるハ等類く。赫
 耀發明の期有可からざ。先斗管の吾躬を以て
 評せん。僕薄命ハ一々卑賤の蝸盧の産也。年齒

九歳初めて市街の華堂に登り、其措摸を習ふ
 ると終小半年漸く小一と假名四十七字及び
 自國都路の紀行一章と學べり。猶縦事せま
 欲さう。小家極めて貧く、殊更同胞一妹二弟あ
 り。父母子俱小六口。家父が一臂の薄業を以て
 數口を糊とこの窮困堪難きが故よ。僕を商家
 の奴隷に仕さしむ。于時十歳奉仕の寸間、先師
 の書本を得て習ふと雖、性來拙く、能書の域に
 至る事幾遠し。或人謂く、書ハ姓名を記し、是

まり。不如（よ）文（を）と學（ぶ）ぶよ。僕（は）此（を）言（ふ）と可（し）と一（つ）と
 と學（ぶ）むんと欲（む）むるよ。自由（を）と得（え）む。然（し）もどる素（そ）
 懐（ま）止（ま）と得（え）む。新（しん）古（こ）の小（せう）説（たう）通俗（たう）の稗（ひ）史（し）。虚（きょ）實（じつ）誣（し）諛（ゆ）
 と論（ろん）せむ。目（め）よ觸（ふ）る者（もの）悉（しつ）く誦（じゆ）讀（どく）むるや。毎（まい）編（へん）夜（や）
 と以（も）て日（ひ）よ繼（つ）ぐものから至（いた）然（ぜん）。勸（かん）懲（ちやう）の（一）端（たん）と
 知（ち）り略（りやく）黒（くろ）白（はく）と分（わ）別（べつ）よ至（いた）り。然（し）もどるこ強（か）間（かん）
 架（か）空（くう）の冊（さく）子（し）よ光（くわう）陰（いん）と費（ひ）。正（せい）史（し）よ知（ち）識（し）と弘（くわう）心（しん）
 る能（のう）とむ。星（せい）霜（そう）十年（じゅうねん）奉（ほう）仕（し）の期（き）限（げん）稍（しやう）く満（まん）る。家（か）よ
 歸（き）ると得（え）むと雖（い）此（を）期（き）老（らう）父（ふ）病（びやう）床（とう）よ卧（ふ）して活（かつ）計（けい）の

道（だう）と斷（た）ち。復（ふ）學（がく）むんと為（な）るよ。財（さい）よ乏（ひ）しく閑（かん）と
 得（え）む。母（ぼ）の前（まへ）よ故（こ）有（あ）りて家（か）よ在（あ）らむ。幾（いく）程（ほど）もあ
 く老（らう）父（ふ）没（ぼつ）せよ。愚（ぐ）妹（まい）と他（た）よ嫁（よめ）。二（に）弟（てい）と他（た）
 よ奉（ほう）仕（し）令（れい）めて其（その）家（か）と去（さ）り。親（しん）屬（じやく）よ同（どう）居（き）して。生（せい）
 産（さん）と營（えい）まんと欲（む）むるよ。稗（ひ）史（し）の弊（へい）害（がい）身（み）心（しん）よ膠（か）
 固（こ）。高（かう）法（ぽう）の思（し）慮（りょ）疎（そ）く。碌（ろく）々（々）として空（くう）乏（ひ）たるよ
 り。遠（えん）く僻（へき）境（きやう）よ伶（れい）得（とく）ひ。櫛（し）風（ふう）沐（ぼく）雨（う）困（こん）難（なん）と極（ごく）め。賤（せん）
 業（ぎやう）羞（しゆう）耻（ぢ）と盡（じん）。辛（しん）うと東（とう）都（と）よ復（ふ）り。知（ち）己（き）の扶（ふ）
 助（すけ）と得（え）む。且（かつ）其（その）紹（しやう）介（けい）よ依（よ）り。書（しよ）買（かい）某（まい）の需（きよ）よ應（おう）つ。偶（ぐ）

然^ズ思^ハ戲^ノ冊^史と著^スる^ニ。僥^倖よ^シて時^好よ
協^ヒ。輒^ニ鮒^ノ一^ノ滴^ニ飢^ニ雀^ノ一^ノ粒^ヲ及^ガばあり。而^{シテ}
一^ニ虚^名都^下に流^布し。將^ニ初^老の期^ニ至^スも
り。豈^ニ本^來の面^目あらんや。窮^迫止^ト得^ガまば
かり方^今進^歩の秋^ニ當^リ。文^運の期^ト雖^シ窮^民
子^ニ學^ビせざるの親^{あり}。貧^兒の瞽^者ニ類^セ
る。閱^然忍^ぶ可^{から}む。福^澤先^生茲^ニ感^{あり}て。
前^ニ世界^國盡^六卷^ト著^スま^しより。絶^小假^字
と知^る而^己の兒^童筆^トして。緊^略地^球上^の景^と

狀^と解^讀せ^しの。大^聲里^耳を穿^つの功^業將^小
闇^夜の一^燈と称^まへ^し。就^中此^編と作^を
や。原^來諸^譯書^の糟^粕し^て得^意の俗^文各^地
の。名^勝舊^跡と修^飾し。粗^其國^勢風^俗と記^載せ
る。敢^て彼^書と比^較せん^の意^ニ非^む。月^ハ平^ら
原^と照^らま^す。且^一く燈^火の歧^路と行^ふ。便^り
あらんか。如^きと故^をま^はり。抑^譯書^ニ二^體
あり。一^と甲^と一^と乙^と。其^譯文^漢字^と片^假
假^字と用^ひ。傍^訓漢^語と洋^語と專^ら兼^用を

る者ハ甲人勤學の一助たる樞要の具ふして
 現今翻譯の体裁あり其譯文專ら俗字と國字
 と用ひ。傍訓ハ洋語俗語と以てする者ハ。西洋
 世界國類通俗訓蒙の老婆心ニ出て。則ち乙あり。其
 讀者として難湯の別あるも其益ニ於る也。
 都て甲乙有べからん。任他僕ガ無學ある既ニ
 前條ニ演るが如し文育ニして書を終るや一
 犬の虚を吼え万犬實と傳ふの罪あり然りと
 雖近來洋學隆盛ニ至り一より諸家の譯書之

一からむ故小蒙昧たる雲霧を拂ひ。清明天を
 仰ぎ。窓前一編と草むる得たり。文章俗體を脱
 かきさるるハ乙の貧兒等の机上ニ備へ。同病相
 憐むの意を表むるあり。偶甲人の具眼ハ觸む
 其錯雜粗漏と攻論せらるるハ。沈黙閉口只管多
 罪と悔悟とべいと云爾

皇曆明治第五壬申年六月

東京市民 假名垣魯文誌

西洋一千八百七十二年七月

世界都路目錄

- 一之卷 亞細亞洲 五族全圖
- 二之卷 亞細亞洲 拾遺全圖
- 三之卷 歐羅巴洲 全圖
- 四之卷 阿非利加洲 全圖
- 五之卷 北亞米理加洲 全圖
- 六之卷 南亞墨利加洲 全圖

附 澳大利洲

頭書繪入略說

全六卷

新四庫全書

各色人生

於五

壬申夏秋 思成書

第一 蒙古種
又黃色人種

第二 高加索種
又白色人種

第三 以日阿伯咂種
又黑色人種

第四 巫來由種
又棕色人種

第五 亞米理加種
又銅色人種

地 上 之
球 五 種



修
之
時
也

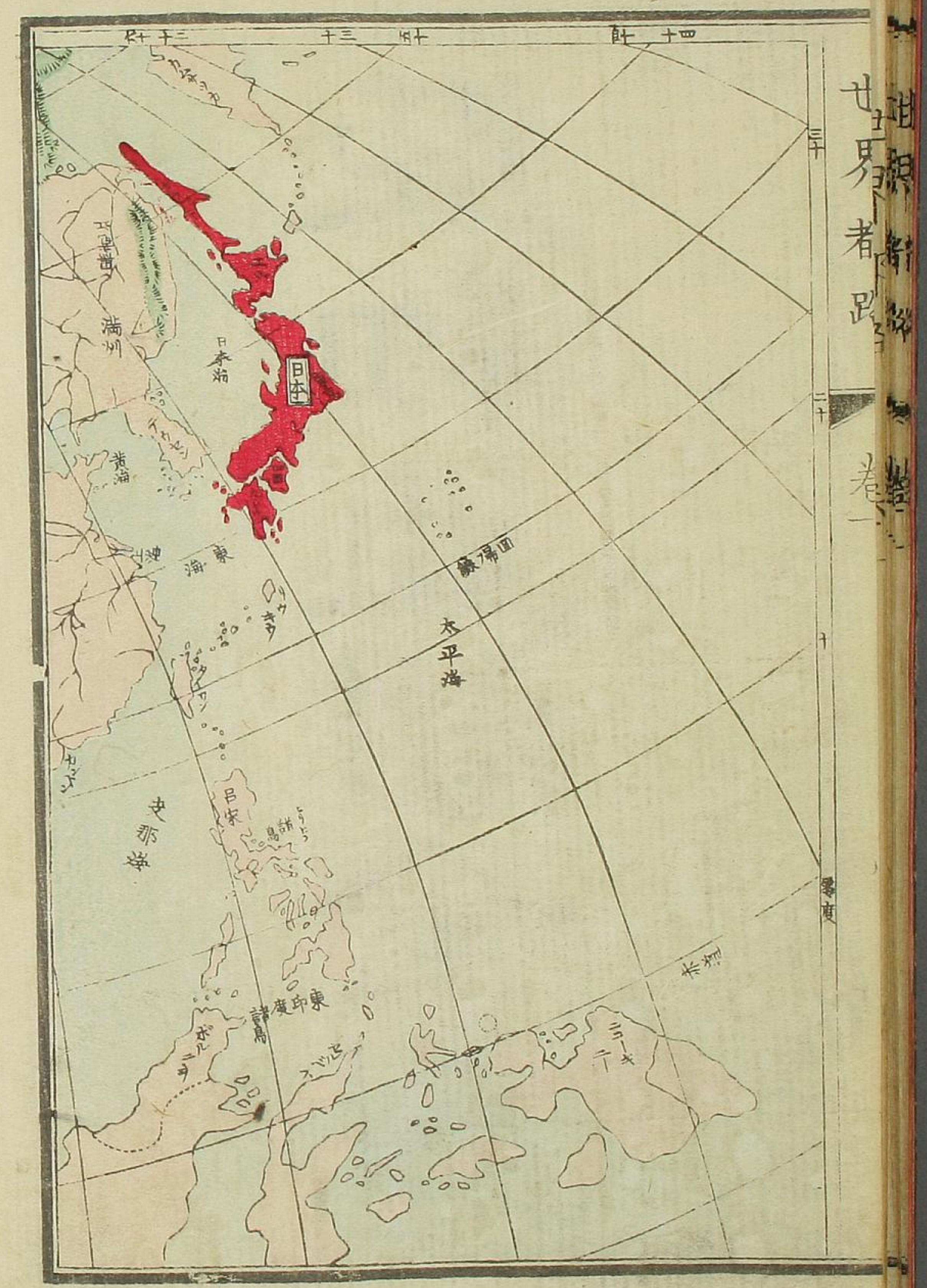
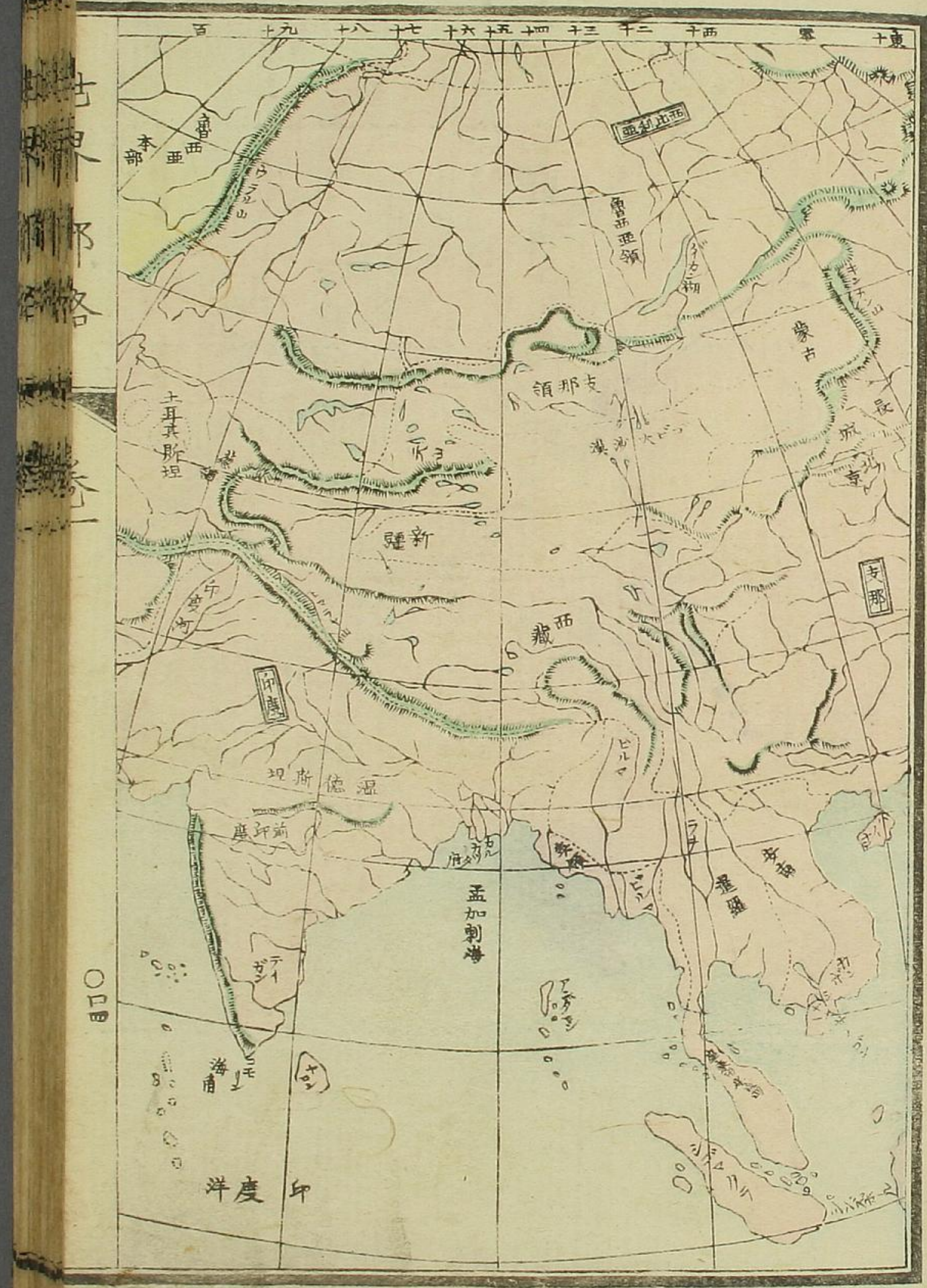
110



世
界
都
道
一
卷

附言世界の人民其外貌骨格同（カ）其多の種類有りと
 雖も其大綱と五種に區別べし○其一莫古種又黄色人と名く
 亞細亞の中央より日本支那滿洲後印度の人種皆是なり
 ○其二高加索種又白色人と稱を歐羅巴の民皆此種に屬を
 ○其三以日阿伯啞種又黒色人と稱を亞非利加澳大利亞の
 土人皆此人種に屬を○其四巫來由種又棕色人と名く略蒙
 古種に似たり印度諸島及び巫來由半島の土人皆此人種に
 屬を○其五亞米利加種又銅色人と名く骨格蒙古種に近
 し亞米利加の土人皆此種に屬を（其本來屬する所の五
 人判然之を別つべし）
 以上の五人種互に混交する次第に其種を混同本來を分る

亞細亞洲全圖

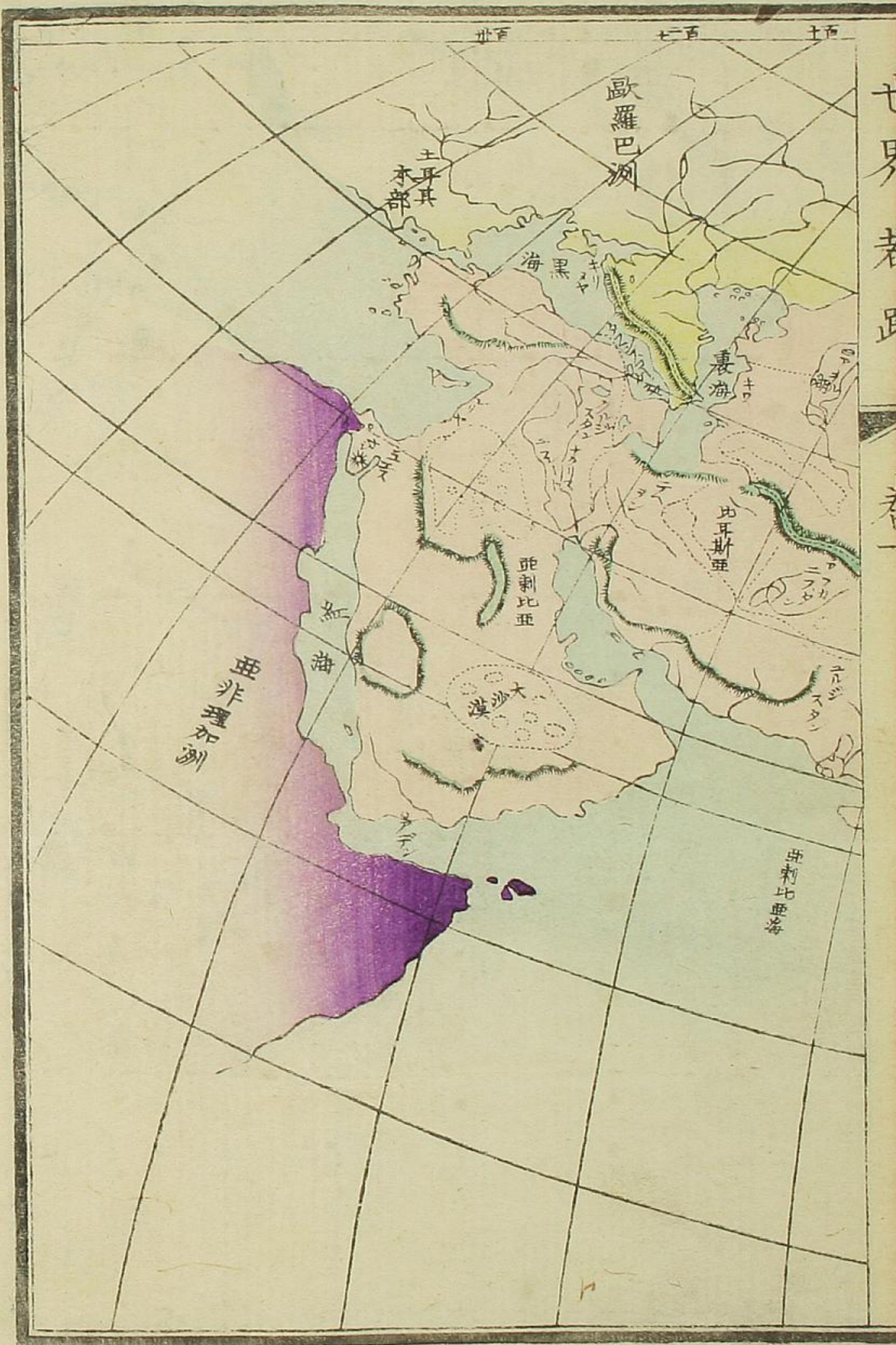


世界各國
卷一



地球遊星の事
 世界ハ遊星と唱ふる
 星ハ一ツ小ト空
 中ハ浮ビ日輪の周
 圍を廻る圓き物を
 此遊星數多ある
 中ハ大ハなる物ハ
 唯ハ個の地球ハ
 則チ其一ツ之周圍
 ハ一万三百五十里

古今事考
 卷一



古今事考
 卷一

世界都路

亞細亞洲

天津日の出を更

中々浮びなる

らふおと源數多

余あり南北を軸ぎして西より東へ轉まび十二時の間ま一廻まりを終はることを一ま盛さか夜やとを斯か轉まびながら三百六十五日二分五厘の間ま日ひ輪りんの周まわりと一ま廻まりして木の處ところに歸かえる是こゝと一年とを此こゝ

星ほしは地球ちきゅうのひつ一ま球きゅうなり
 形かたち象さう大だい世せい系けい六むつ個こ分ぶん
 ち大だい洲しゅう社しゃ内うち小せう名な
 國こく民みんを保たもつ事こと王わう
 共とも知し政せいを能よく去こ地ち極ごく



間ま日ひ輪りんは近ちかづき或ある
 遠とほざかり且かつ其その光ひかり
 りを真ま直ちかく受うると
 斜かた小せう受うると由よして

隆たかひく四季しきを定さだむ暖ぬくむ
 矣や終つひに善よきも惡あつむ
 我われ君きみの臣おみが敢あやて
 之これを志こころす記しるす
 乃すなはち憲けんの戸とを時ときに
 乃すなはち憲けんの戸とを時ときに

寒暑一様ならず。四季の變化是が爲小生ざるなり。

六大洲の事

地球の上小水あり地あり水多く地少し。大約地の一分水は三分の一。其地を分て六大洲と号す。亞細亞、歐羅巴、亞

非利加此三洲の地連なり。又澳大利亞あり此四洲俱小地。球の東半面あり。北亞米利加、南亞墨利加此二洲俱小地。球の西半面あり。六大洲の内最大は成者亞細亞之小次。亞非利加と北亞米

昇く文のり波動。ある日の本は。東の原を首途して。途を歩くや。横濱に淡雪の風をよく。

一夜神居小宿。む長崎より。能南崎。西小傾く。薩摩。我國風。鹿。琉球國。中山。

理如と大低同ト又
之小次々南亞墨利
加と歐羅巴あり其
中最小者ハ澳大
利亞あり
亞細亞大洲ハ東の
方大東洋小界ハ南
印度海西歐羅巴洲
小並ビ北冰洋小界
其人種黄色其數四

山南山水三者あり。
かつちそそ府を首
里とよび。氣候を何
ん暖く。冬も雪を
積たし。雪を

億六千萬お下らせ
他の人種と混トて
洲内ハ在る者六億
人余土地の廣きハ



思ふ例ハ有る。
封建世祿數之法。
大中小を區別して。
之を按司と号す。
たる國乃國に比す。

下五百五十萬坪小
餘り六大洲の内一
番の大洲あり
亞細亞大小國嶋
○帝國日本の大平
洋の西北隅の方小
位なる大嶋國小
て其西に僅小隔く
朝鮮小對し北に柯
大に連り魯西亞領

波文二十餘りり
六つの島本邦乃
對馬より境に隣小
十里朝鮮國を八
道なる府棟の系

と境を接し地勢幅
狹くして長く東京
を以て大畧其中央
と全全國の長さ五
百餘里幅三十餘里
の処より六十餘里
小至る國內を五畿
八道小分ち又八十
四洲とて西京東京
大坂の三府の中東

東は東に岸小
品海府釜山の浦也
鴨綠江を地を山小
續き海小
形象らるる日本

京ハ目今帝都の地
ホシと繁花人口の
多き世界四大府の
五小下ら七皇統ハ
萬古不易連綿トシ
今日小至る天神
七世地神五世無數
の年曆と經く人皇
の始祖
神武天皇の即位の

能く其の如く。角実合
乃世なる人。新故業
多く友達しく支那
ハ江の揚子江。大乃
方の分流も。吳湘江

元年より今明治五
年小至るまで二千
五百三十二年百二
十三代あり



とそそ其昔。能く其
名も高き。故松江
の跡や。如布帆蒲
帆引揚く。そのり
河船。岸の街

○琉球の日本薩摩の西南海上大凡百三十里許小あつ孤島あり長さ廿七里幅四五里小出入也此外屬嶋廿六あり此國昔ハ天孫氏久しく國王なりが七百餘年前小内乱幾り國王逆臣利勇

乃竿さしきり。陸路村里をさしきり。眺むる寸る豆人。墨繪よ画く山中の風情を新也上海も。おきそ

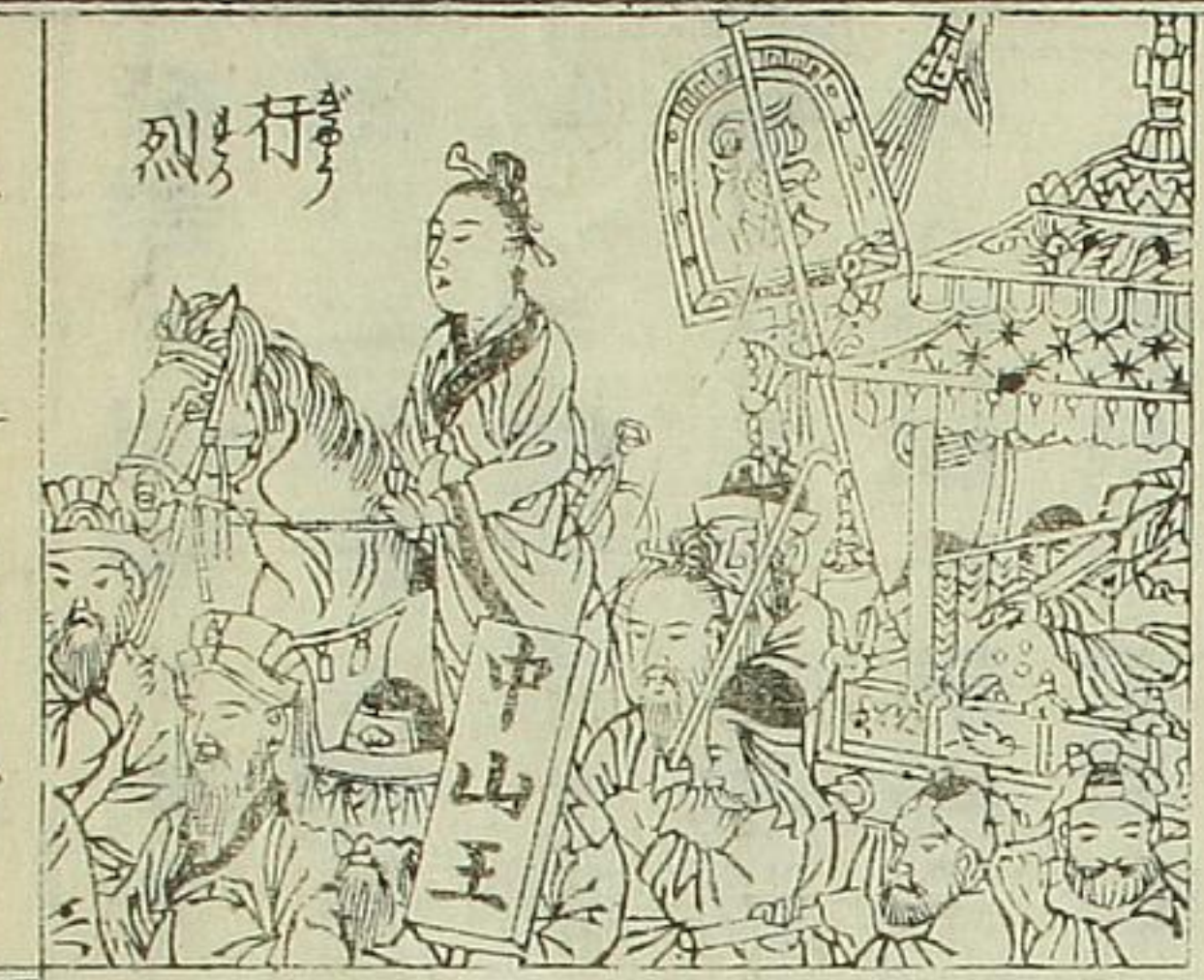
と云ふ者の為小弑せらまは浦添の按司利勇と誅して王位小登る之を舜天王と號を舜天ハ日本人源の爲朝の子ある事彼國史中山傳信録小記せり朝新ハ滿洲遼東小接して海中小突

おきそ舟の港もく。西洋は國もその國の高も船も出つ入つ。島なり連るる高殿も。外國人の役部もその國

出たる長さ大凡
二百里幅六十四里
の半嶋あり本文の
彼が固陋を論ぶ角
突合云々とあるに
地象の海角小擬と
ある唱ひあり此
國土地を拓きたる
年代を詳しせず支
那の封を奉げ國と

乃旗章。飛くめ紀建
し。百少。是。運。上。之。心
波戸。場。あり。路。た。ひ
ら。の。り。傳。は。様。か
亦。渡。り。する。者。修

建る者箕子を以て
始めとし初て朝鮮
の号あり後小邦と
分裂して高麗新羅



の。便。に。能。文。也。詔。了
ま。一。里。餘。り。乃。市。街
を。さ。る。に。於。て。城。の。構。へ
ある。に。但。古。是。魏。蜀。三
の。代。也。孫。仲。謀。の

古史新記 卷一

百濟の三部となる
故に又三韓と稱す
後又一統小歸を此
國千六百七十年前
神功皇后の親征小
より朝貢し近年貢
を奉げて豊太
閣小討伐せらる
ことハ普く世の人
の知る所あり

繩張一。建安城と
名も高し。周の東
築一。高城と。煉
化石一。豊と。安
護一。法門の八日。純

○支那ハ大約亜細
亞洲第一の大國小
し。領地ハ魯西亞
の次おととも人口
ハ之ハ二倍也。域内
ハ十八省小分り其
中大小の都府數を
知らむ其名高き者
北京南京上海等也
上海ハ南京の南七

刃鋒鋒を飾り。建
右小兵卒。不あり。衝
の性。中。隆。高。家
店。立。笑。後。立。有。る
門。皆。捷。一。徳。果。肉

十余里在り我長崎より海路大九二



新嘉坡。群集を
城外に路廣く魚
野津の市場あり。

百二十余里あり揚子江の口より二
筋ありて所々の港あり此地二十余
年前始て英國の爲小開きたる比人
烟甚だ稀あり一
近年英人を雇ひて
支配せしめしより
貿易繁盛し至り人

一里餘りを江に傍ひ
く。その港に新大
橋是より出入る處
と歌舞妓芝居の
店はあり。陣

口五十万小下らむ
當時支那十二港の

第一なり

臺灣モホル又東寧嶋

と訓を福建の東南

岸あり長さ九十

八里幅三十余り西

部の支那小属せむ

も東部の未属せむ

しと處々小村落を

繁華を極めし事。

此地を去るるはるる

明末清の代の始也。

種々倭強國性各

部或切ぶ或絶たる。

をわし風俗甚と卑

く氣候暖熱草木繁

茂して果穀を産む

又瓊州嶋あり廣東

の海角を離る事

僅か七里大サ臺灣

より差小あり氣候

同トく産物多く内

地の土人小属し海

岸の支那の居民海

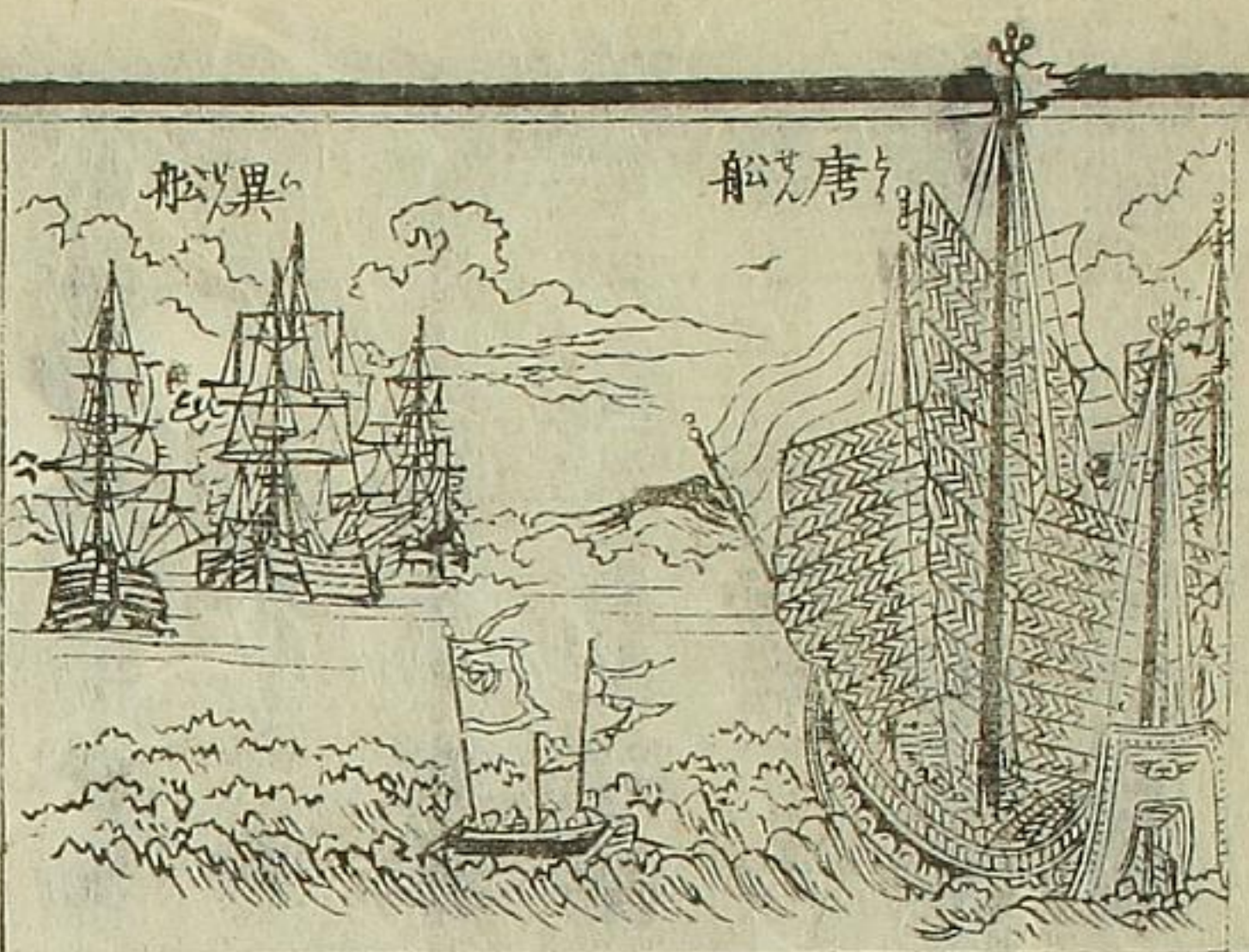
あり臺灣嶋を横り

見く。南より北なる者

港も支那廣東の

地人なる海に浮べ

る一孤島。亞細油乃



賊を為と者多し
香港の廣東の河口
ふある小島あり長

四里餘幅三里小満
たむ金嶋岩多し北
岸小傍て港あり港
内廣深し地勢亞
細亞第一の碇泊場
と名づく人口十二
万五千大略支那人
あり其四分の一
皆船の内住居を

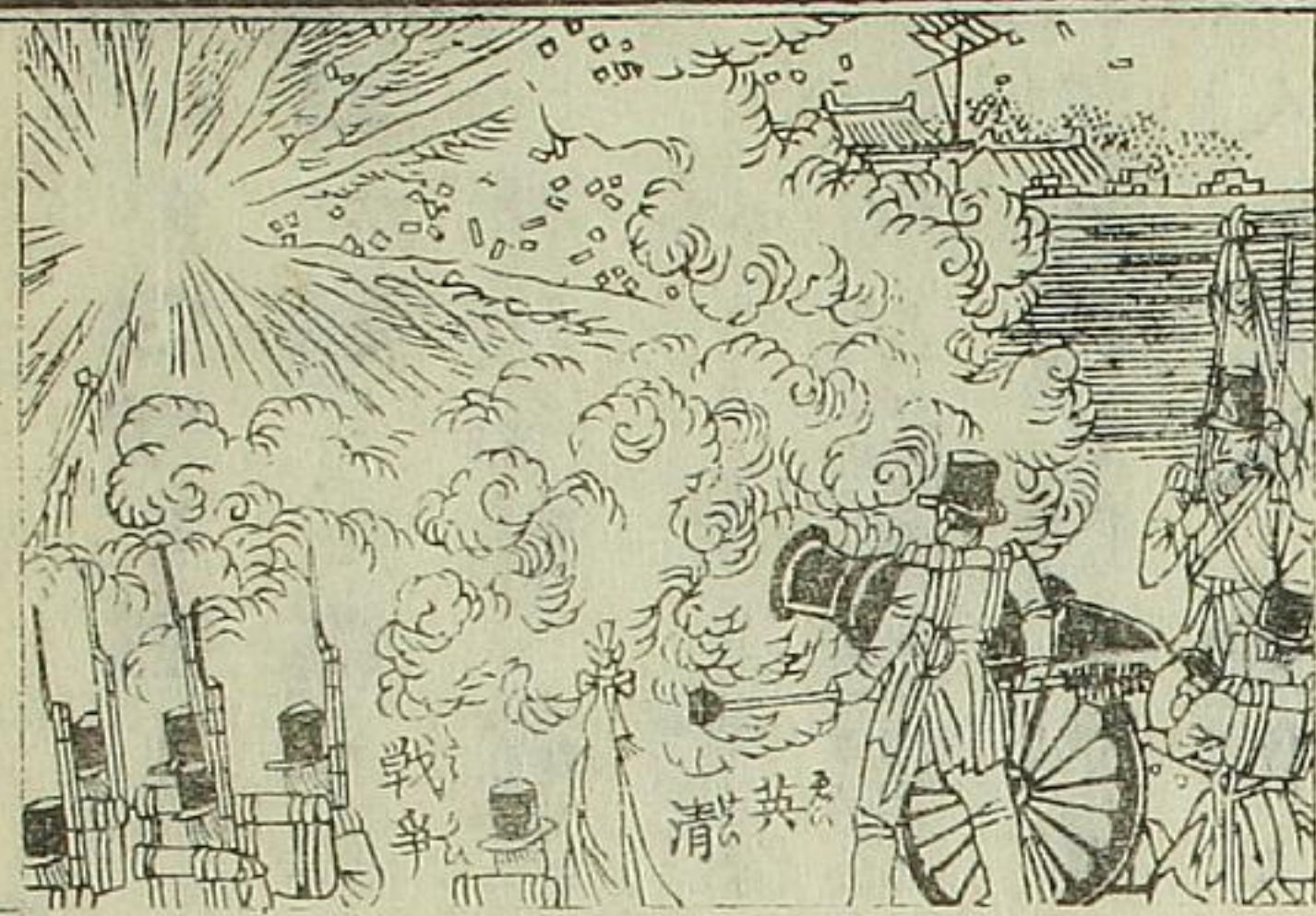
我ひ小級ふらら禮
て英吉利の所領と
ましそは及む
の是地ひまき
開きそ道路とな

海を塔めて家を建
おる角切燈臺島
玉の宮をふとを志
ら波也ひまきを
結林まき。盗し路を

是者なり此地鴉片
 烟の戦争和議の後
 永く英吉利の領分
 小歸し英國より鎮
 臺を置く之と管轄
 を常小教多の軍艦
 を繋ぎ支那海警衛
 の要地と我長崎
 より海路大凡五百
 里余なり

程をありけし身を
 一好むるを併仕出
 本乃切と仰ぐ高嶺
 太平山登る一里の
 嶺ふ旗を掲げて

支那清朝近年数々
 英國と戦ひ毎度敗
 績と國の勢ひを折



入船の目的となつ
 沖津崎より一る帆
 影也海原の眺めを
 飽うぬ備えたるを
 山をりて遊覧の

かき盟約小背き外
國の悔りを招くと
と多し初度の戦ひ
ハ今より廿三年前
ハ在り從來支那の
官吏私を行以外國
人を蔑視し夷狄と
卑め禽獸の如く扱
ふより林則徐と云
人廣東を督する小

設も此なるのむ
の季より子未の香
を去らざ。元未若
執去地なるまじら
涼しきを占るるるん

及び年々英國の所
領印度地方も多
産は鴉片烟ハ人の
身ハ大毒ありとて
嚴く禁じたると支
那の民深く此品を
好むより英人も多
く利あるを以て内
密小賣買をすること
露頭して林則徐大

花まるなるく酒出せ。
茂る大樹の蔭に
く日陰の懐也玉座
海樹産ふ結珠乃。
圓扇産蓮より深

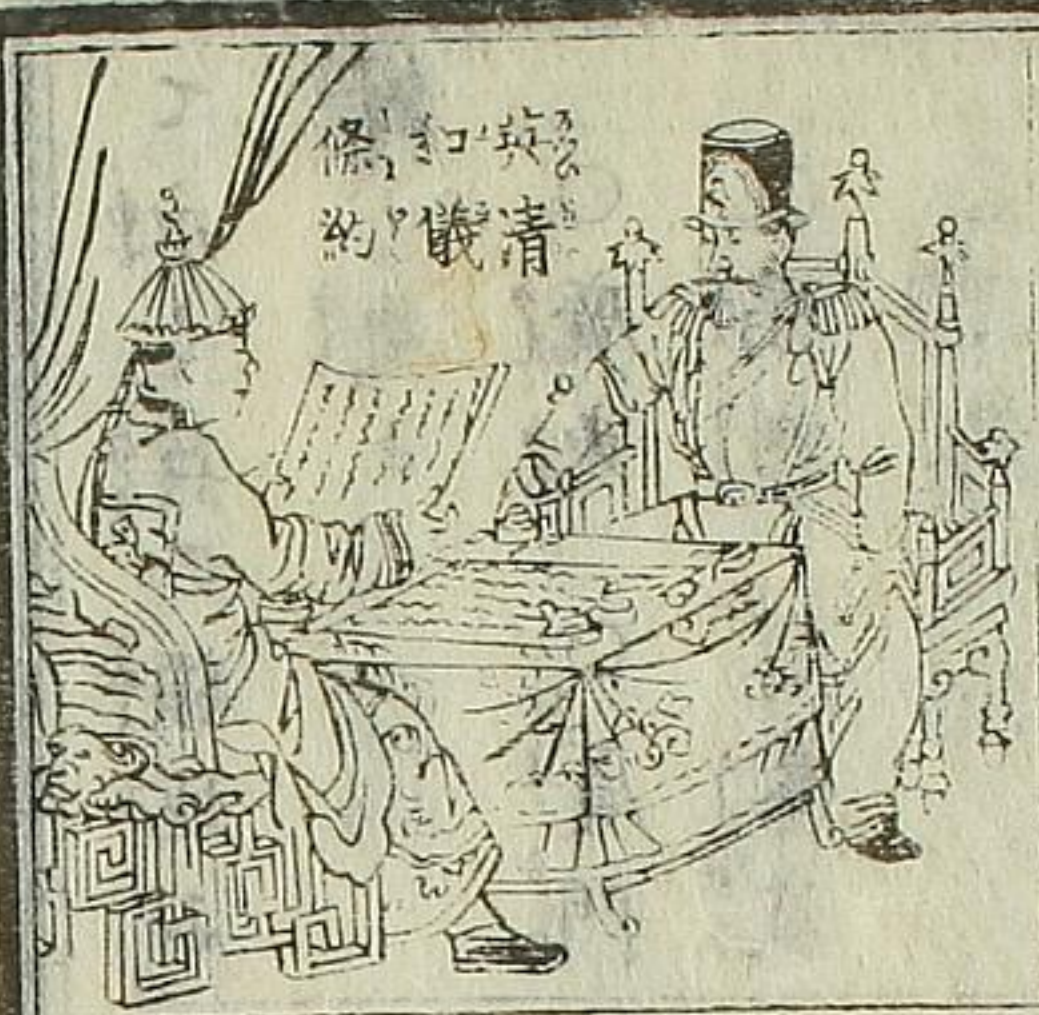
以小怒りて英艦小
積貯へたる鴉片数
千函を焼益せし
より兵端を開き
英國より軍艦数艘
を發し清國数所の
城郭を陥る後遂に
清より和を乞ひ償
金二十一萬弗と
出づる香港の地を割

了。家を容態を具
となせり。英本國の
諸友人。内地に在る
各鎮。台府。大審院
の裁判所。英漢及び

て永く英の領地
歸し更し
○廣東 ○厦門
○福州 ○寧波
○上海
右の五個所の港を
開きて通商の地と
為して聽濟めり其
後十七年經廣東小
於英清行違ひの

法学校造幣新聞
兩局小左ふ博を
病院を略歐洲の
政體と摸く
ある者を系し抑支

事起り支那人英の
商館を焼くより再
び戦ひを發し英の
軍艦處々の炮臺を
毀ち廣東を焼束ふ



那も亞細亞洲之分
之を保ちつて世界
をめぐり魚日西亞領
乃次に入居す大國
也。其も知らざる者

不至る此は於て清
朝又許多の償金を
出し改めて條約を
結び和を講せり
今より十二年前英
の使節條約の事小
竹天津小至る途中
支那人欺き不意
小撃しより英人死
せる者多く使節の

塞外は地方合を
東の西を凡二十里
南北の幅は百餘里
もや人口四億零四百
六十萬と云ふ元

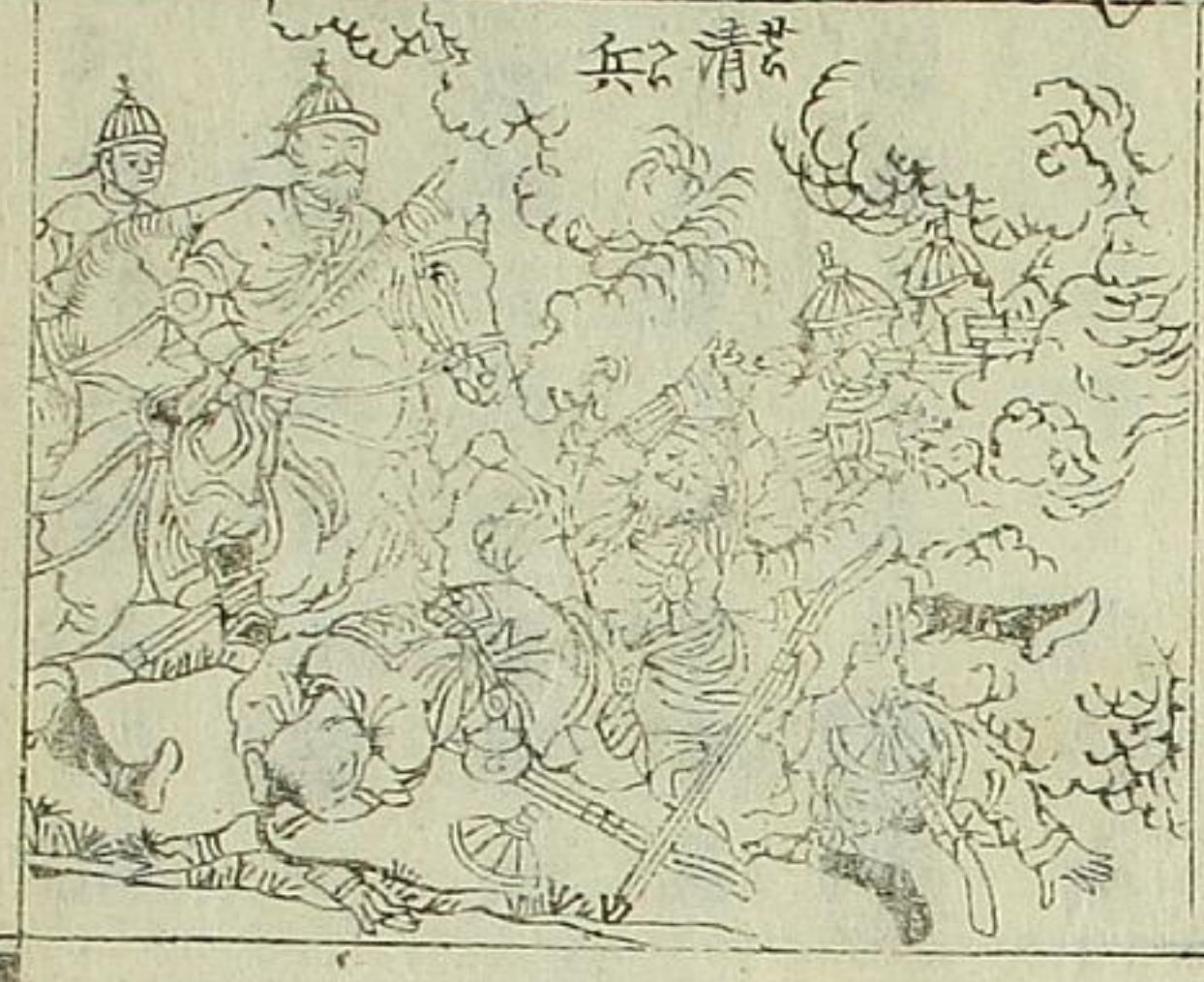
七
月
者
此
卷
一



全權も終身を道
とて還歸る小至
り此時佛蘭西國の
使節も又共小此難

北より西比利亞東南
を早奉海不支那
海南を印度西方
支那も屬をぬ獨
立の韃靼界小境

小罹る小より其習
年英佛合併して二
萬の兵と發し軍艦
直小天津小上陸



世界
部
路

卷
一

〇十七

して長城内を本
部也。唐虞此
古物智を。星宿を
今の代を。清と
号する。帝國の頭

て大い清兵を敗
 り遂小北京小通り
 帝城を焼清帝幸
 して満州の地方
 遁逃る及比其弟
 恭親王和を英佛
 乞ふて一千二百萬
 弗の償金を出前
 小開きたる五港の
 外更小

是る後京城内純
 饒ゆたより十八
 省土地を分ち大
 都府の教多き中
 尔名なき北京を

○牛莊 ○登州
 ○台湾 ○潮州
 ○瓊州 二其他
 等の八港を開く
 及べり
 支那の北京の國帝
 の都城小して英の
 倫敦と共小世界中
 の人口多き都小
 て繁昌の地あり北

高平の在は城ありて
 なる死を連る明王
 府人口二百五十萬
 雲小後身一丁外郭
 九門府内花無り

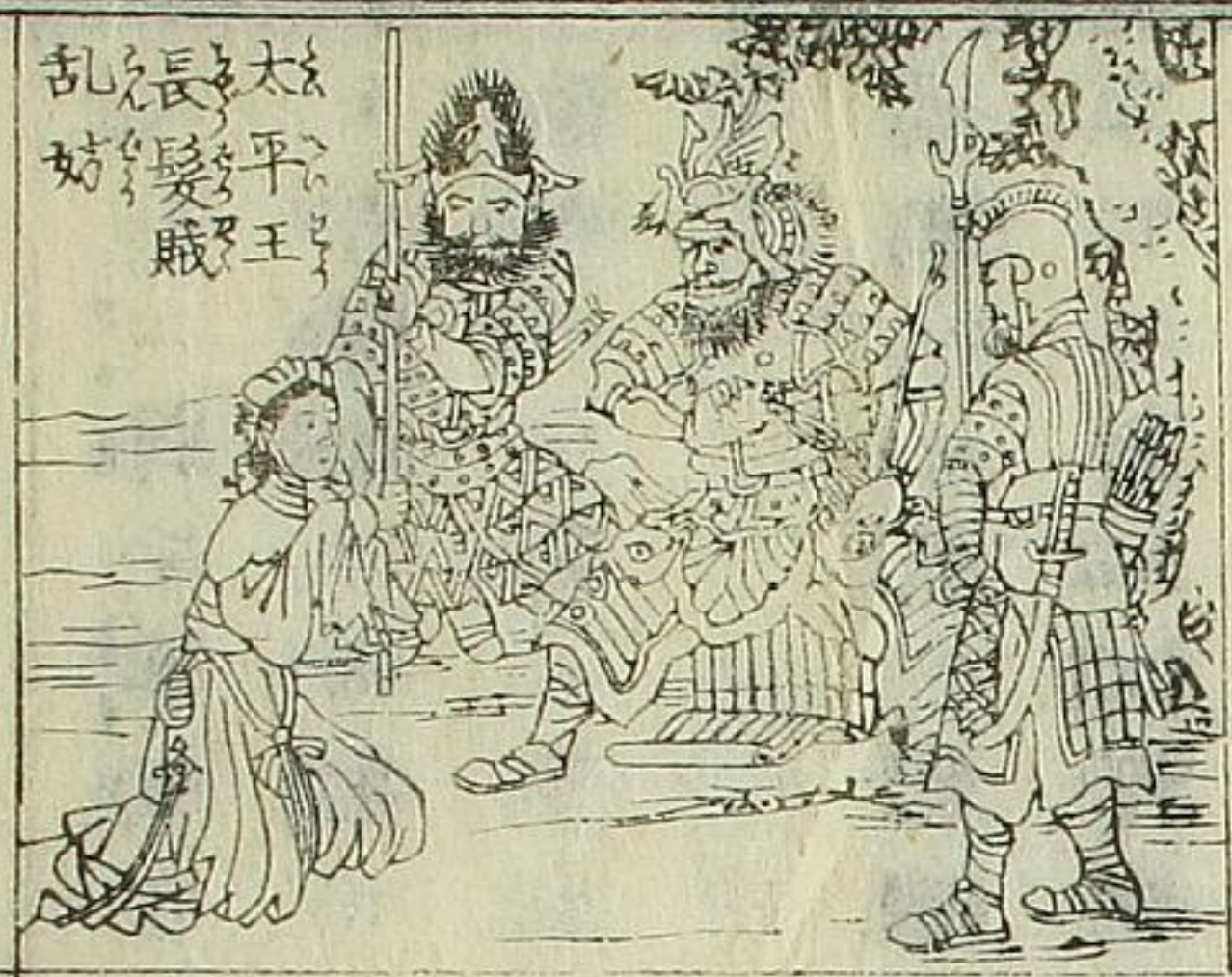
世界部路

卷一

京より抗州府まで
 大凡七百里の間堀
 破の運河あり之を
 御溝河と云土地柄
 の砂の平地あり萬
 里の長城より六十
 里余も南の方小て
 東の海より八百里
 里心かりも隔ちた
 り元來二個の府並

達つらゆる殿造
 了。学校寺院庭園
 の。景も妙なる物
 教あり。さうさうり
 文華。楚曲の風格

以建ち二府共小廣
 大ある構へありと
 城の周圍小高塀を
 築き支那人と鞞靴



古界部路

吾餘や小中國と。
 自倚暴慢の心をも。
 外を狃ること禽
 獸。はくも夷
 狄。の後。多し。

人と二別て住居せ
り支那帝の祖先
韃靼人あまはなる
べし
天津の北京の東南
三十二里北江河の
辺あり氣候の寒
暑共小甚しく民口
百万ありて繁昌あ
る府あまはる市街

諸ひ我悔むを
亦一陛下の官
殿に連珠玉七
寶を。ちりまを
飾る壯觀のる

ハ汗穢しき所のと
多し此港の十年前
より英國と通商の
為之を開き各國の
商船あつると金
貿易盛んからむ此
地外國人の居住多
き由支那人彼宗
門に歸依する者あ
り然る小我明治三

小池水の流をめぐ
りて、
香子好強の可
縁ぐる暇あり。城の
街の家並より。鶴を

年庚午の夏六月の頃此土の攘夷を主として張るもの黨を結び佛蘭西人の男女二十四人を殺せしむるに居留の佛人驚き怒り既小大乱を生せんといふ此の時佛蘭西の本國に普魯士國と大戦争

平屋を造りし。又天津の枝河小樹に渡りたる橋梁の長さ七十余丈あり。皆大石を墨置しあり。

の家中あまはこと内々小て濟たり。い最危かり。南京の支那本部の舊き都は北京の對する大都會あり揚子江の右岸あり南小當りて上海の港へ七十余里我長崎と相對して海

白蠟石より獸類は。形象を刻し標干を。装る巧の細やうふ。は来旅ふ者のる。蕪粗町と名も高し。

上三百里之名勝奇
 觀と称せし者最多
 かりしが近年長毛
 賊の兵火小羅り消
 亡たるより府内三
 分の二の空地のそ
 有て衰へたまど賀
 易ハ繁昌一文华風
 流の地小して詩歌
 と唱へ章句と綴る



雅人の閑居をる者
 多し
 支那近來内國諸處
 小賊徒蜂起して常

世界都路

そは外町の敷敷
 歩人歩福を
 あへく。むすぬ。聖業
 の坊間ふ等しく
 垂る。辨後。柳の

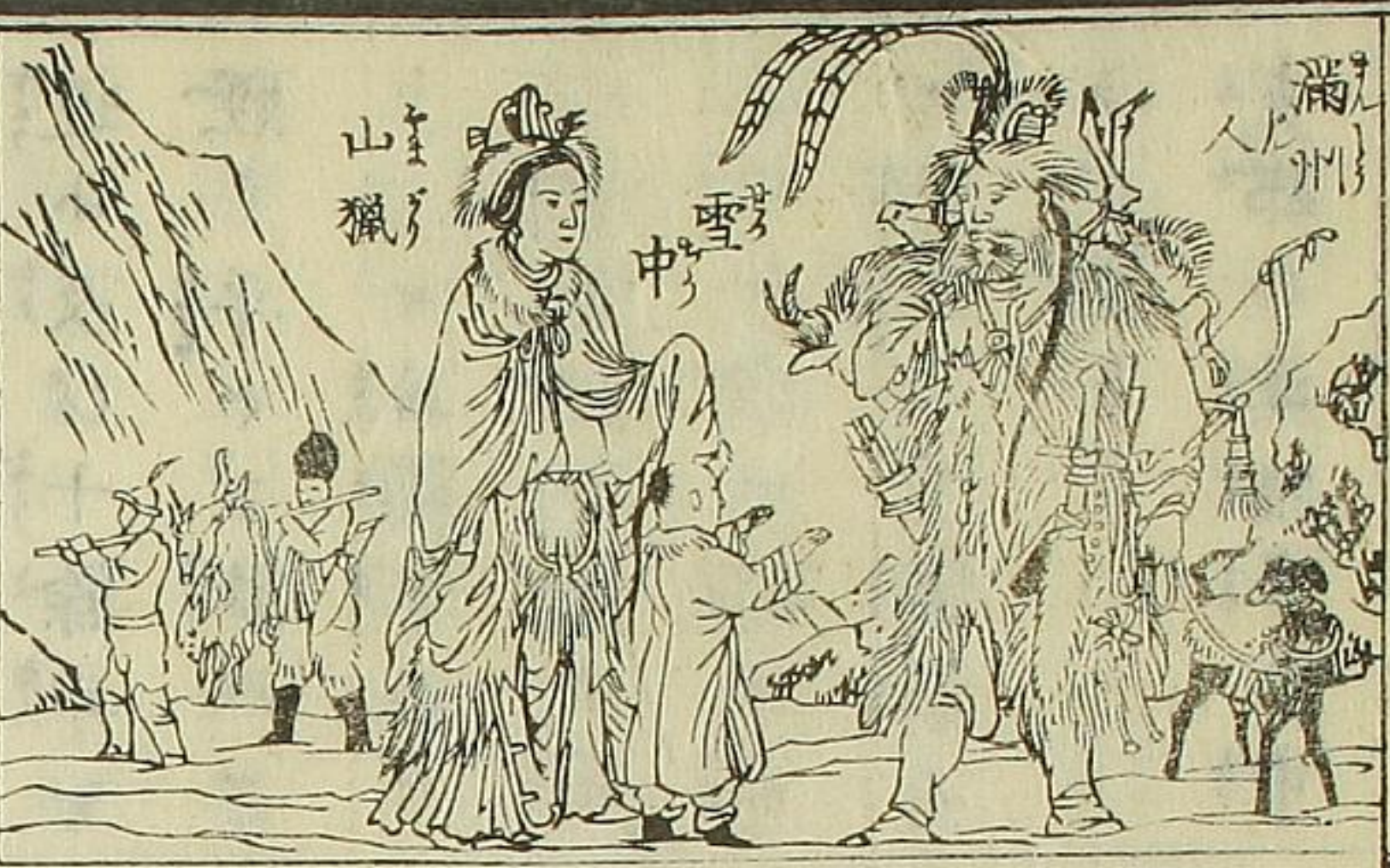
枝の春風ふ靡
 くと秋と波たわな
 小対する古田原
 き都の名残ふく
 揚子江なる南岸の

小平穩ある年少く
其中大ひあるを長
毛賊又長髪賊とよ
びて二十余年前よ
り江南の地を煽動
し其勢ひ猛烈小
て自ら王号を称せ
る賊魁多く終小南
京を陥入る太平王
と称する者此小都

瀨小傳ふく九十四里。
高き四丈の外郭城
門十二の通り経る道
程七里小解あり。
苗圃人口四十万。家

一近隣を奪掠去る
其餘災寧波上海の
辺小及び十餘年を
經る平ぐる能はざ
りしが英國米初の
士官支那政府の兵
小力を戮せ終小之
を討亡して鎮静せ
る小至る
支那の産物多き中

小高き丘小建寺
院を塔華砒磨小
て。風流玉雅の古地
有るを博士文人
星々の任ひも多



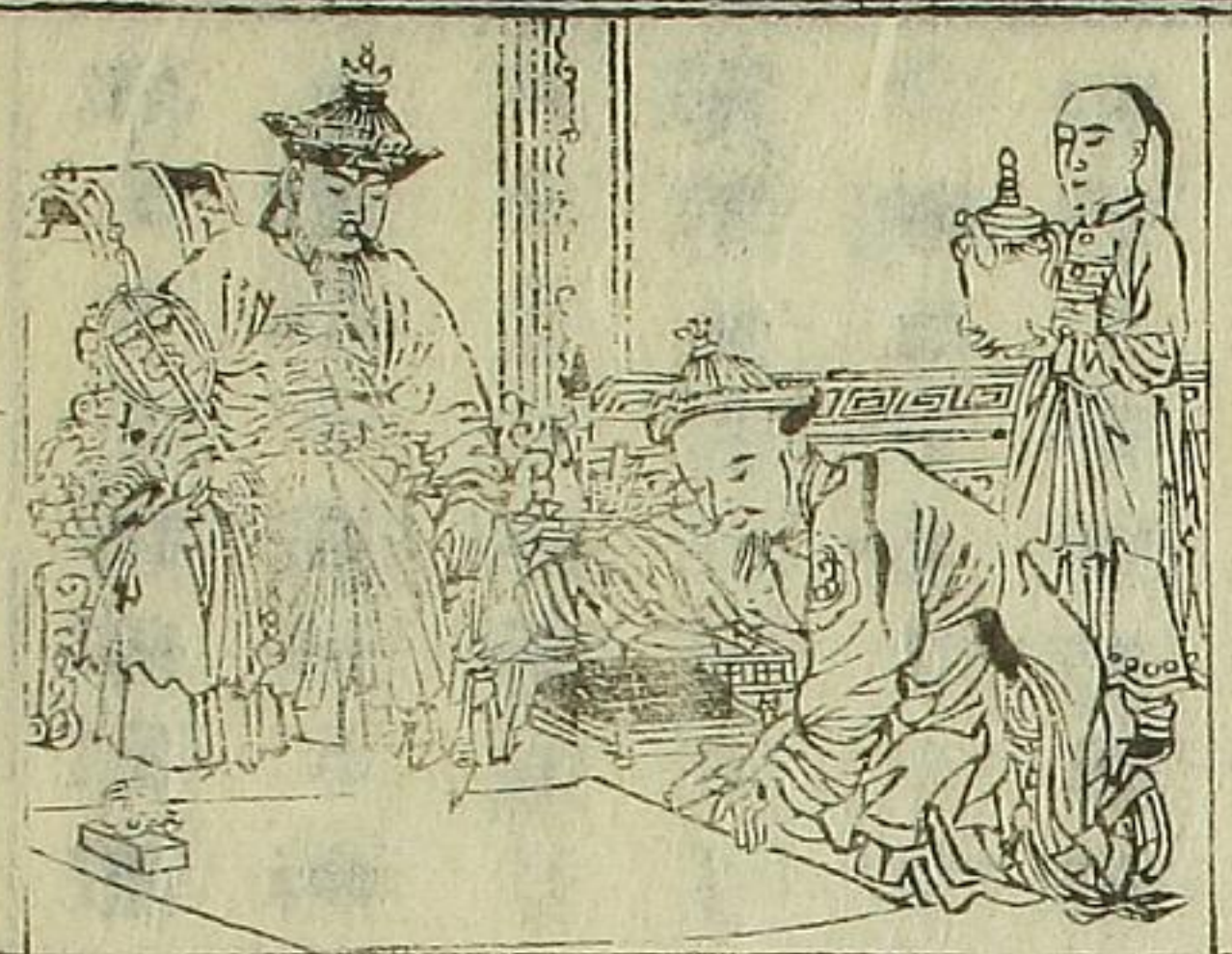
小茶を以て第一と
を國益を為す甚だ

を路清く市店ふ
おまき書林紙墨
事如陶器製工
佳品の品方なり
購ふ者多し

多しと魚大略之を
鴉片トピム小失ふ鴉
片ハ印度中處ハ小
産すると虫前印度
孟加拉ガラ州を以
て第一とモ英船の
毎歳輸入ハ所夥し
近年の戦争以來
其禁止を廢して公
然て之を賣買する

名所舊跡めぐり
ま。穀物もある
土地なごら。長後
械の私をく。兵火
能成と消る

が故に國民の害も
る事多きを知らず
鴉片の烟を喫も
る時の精神恍惚と
ありて眠るが如く
醉か如く其味忘る
難しとど一度之を
嗜む者の身體小害
あるのちあらば貪
困に陥ると厭ふ



衣食を缺甚しき
愛子を賣て之を換
終身止ること能ふ
事と云ふ恐るても

そは為り。近頃再
と十三支國の利益
能多し。れが。民の鴉
片を好むより。結ぶ
手許り。水淺き。

省運。國。さ。その。この
。但。他。の。易。の。勢
。已。見。ふ。終。る。な。
支。那。海。岸。の。交
。易。場。西。洋。諸。國。の

怖るべく我國民謹
身戒心の第一小加
ふべきハ此毒烟の
災害あり
○韃靼と名づく
地方ハ支那及び印
度西藏の北西北利
亞の南又東ハ日本
海より西裏海ハ達
毛亞細亞の中央

原より度る我は
多なる。移時一交
む者。牙能ふ害ある
の。なる。は。味
ひの。忘。る。絲。衣。食

小して東西大約一
千五百里連且地方
の總稱あり其中天
山以西の部の支那
ハ屬せ之を獨立
韃靼と稱ふ其他伊
犁蒙古滿洲朝鮮等
を皆支那韃靼と号
し支那の版圖小屬
也其中滿洲ハ近來

を缺く。求む。其
終り。貧く。あり。果
と。家。を。失。ひ。百。歳
の。方。を。と。り。子
屋。一。并。化。次。方。小



大半魯西亜領小歸
たり北方ハ阿爾
恭の連山并列して
魯西亜の国界とあ

南ハ崑崙山の脈
西藏國の境界と隔
て中間西より天山
の群峯連綿と内地
小直り其間平原多
くたまく膏腴の地
面ありと魚才壁或
ハ瀚海と名づくる
大沙漠有りて東西
五百餘里小跨り南

をり。我國よ
心。既。前車
の。後。取。手。を。見
写。つ。お。の。つ。ら。後。の
車。に。戒。多。く。と。為。よ。と

浙。吉。あ。る。難。を。控
忘。る。こと。と。勿。き。め。ぐ
玉。く。く。少。江。の。南。の
岸。の。天。津。の。人。口
万。如。威。の。港。あ。が。ら

世界都路

北二百里より二百
七八十里小達も大
澤湖水處々あり
各地部落と分ち村
落小住居する民あ
り又水草と逐て住
居と轉て野蠻多く
人口土地の大なり
比ふ色は甚だ酷し
○滿州の支那東部

おいて日本の對岸
に在り地勢は東北
興安嶺又ヤグの山脈
聳へ黒龍江と殊小
名高き大河ありて



世界都路

市街は積石
臺塚山をふく
面を背く針
あり寧波厦門
をさへ變りて
地清

あり商人の屋を
を富む如く民
達も廣東府
版圖より所
技へ奉りて

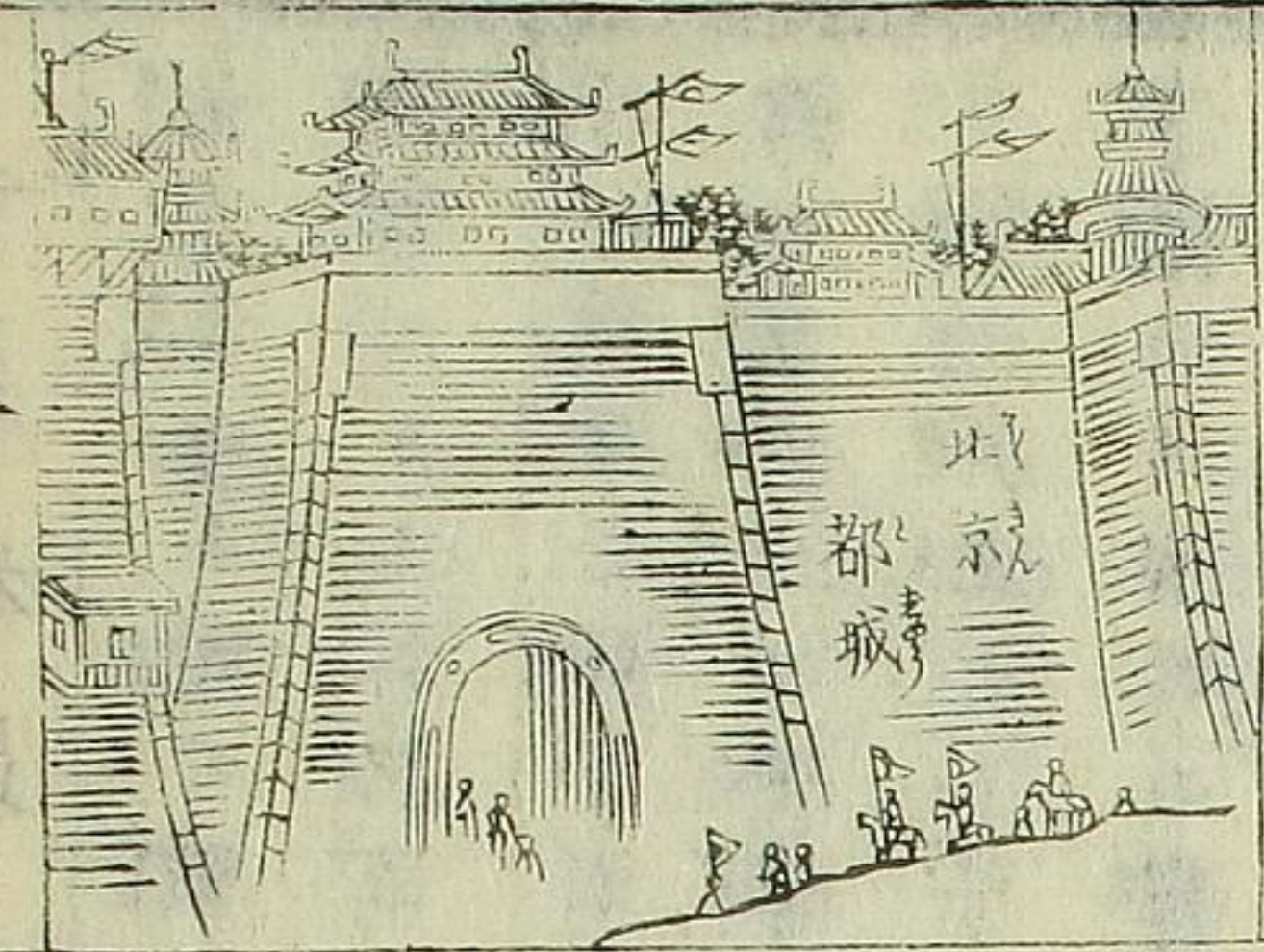
其下流ハ混同江と稱シ尼哥勞斯科の海峽ハ注ゲリ此州ハ元來清朝の本國ハシテ全クその版圖ハ屬セシガ漸々魯西亞の蠶食と被リ又十年前より黒龍江の南海岸の地方朝鮮ハ接シ又

す。あるの中へん
韃靼の二部あり
滿洲あり東とあり
列々興安嶺は
脈は黒龍江乃

魯國の版圖ハ歸ス故ハ支那ハ屬スル慶大略その半ハ過ギセ主府奉天府ハ清帝の祖先明朝と連戦シ終ハ支那と併吞セシ逆數代都セシ慶ハ一々奕世の宗廟此地ハ在リ十二

水とを汲く流る
混同江尼哥勞斯科
ハ海峽リ注ぐ大
河の瀨を連シ二ツ
リ分つ清朝の源

年ねん前まへ英佛の強兵北
京小逼うた時清
帝道逃て久しく此
府中止まらう
清朝の祖先ハ滿洲
王わう子し一いつ名なと努兒
哈かと云明の萬曆四
十六年小鞆韃地方
より大軍を發して
明國小攻入り四十



余年の戦ハ小明を
亡なげし始はじて支那を一
統いつ一いつ國號を清と改
めたり是を世宗と

七男都路

國こくと一面いつめんなり。その
領りやう分ぶん小房せうぼうありせしむ。
近ちか江え以い魚日西ぎよにっせい亞あの替か糧りやう食じき
を被かりしり半はん
過あま彼領地かのりやうちと我われあり

りし一いつの都とを
奉ほう天府支那の帝
の一族いちぞくを封ほうじと國こく
り王わうしれど言語ごんご
由文字よふもじえ異ことなりか

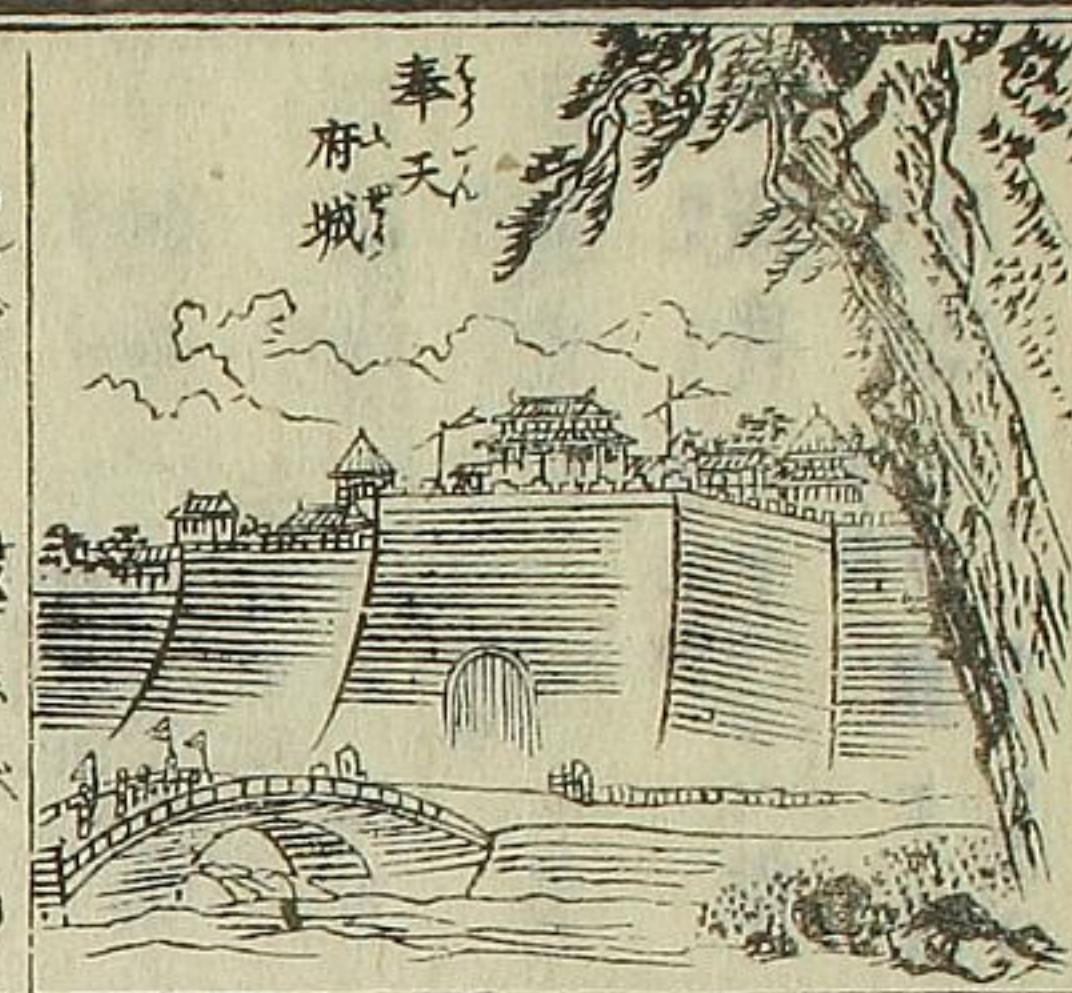
七男都路

稱一年號小因て順
 治帝とも云其次の
 帝と聖帝と稱一年
 號と康熙と云博學
 多識の英主にして
 清朝二百余年の霸
 業を興し此帝
 の才徳小依る清
 朝順治元年より我
 明治五年壬申まで

らぬ物も頭極友のこ。
 このちりやうとて
 此地遼東とて府ふ
 小京より
 東北二百五十六里
 あり。大清覇業は

二百二十九年あり
 清帝世系
 ○順治 世宗在位 十年
 ○康熙 聖祖在位 六十年
 ○雍正 世祖在位 十三年
 ○乾隆 弘曆在位 六十年
 ○嘉慶 永琰在位 二十五年
 ○道光 宣宗在位 二十九年
 ○咸豐 帝在位 十一年
 ○同治 今帝 十一年
 十一年より

此は北以て枝代は
 都累世は宗廟友
 存るもとて也。南
 の首府の吉林も
 清族王も



○蒙古の北西北比利
 亜小接し南支那本
 部小界し東滿州よ
 り西伊犁小跨り廣
 大なる平原の地小

陸軍氏衛の要ふ
 里。蒙古より北方西
 比利亜より境を接
 し南方より支那本
 國より界して東滿

して其中小戈壁の
 大沙漠東西小蔓延
 土地と二分小別つ
 萬里の長城外沙漠
 小至る部分を内蒙
 古と稱し一沙漠と阿
 爾泰山脈の中小あ
 る地と外蒙古と稱
 する都て外蒙古の喀
 爾喀人種多く水草

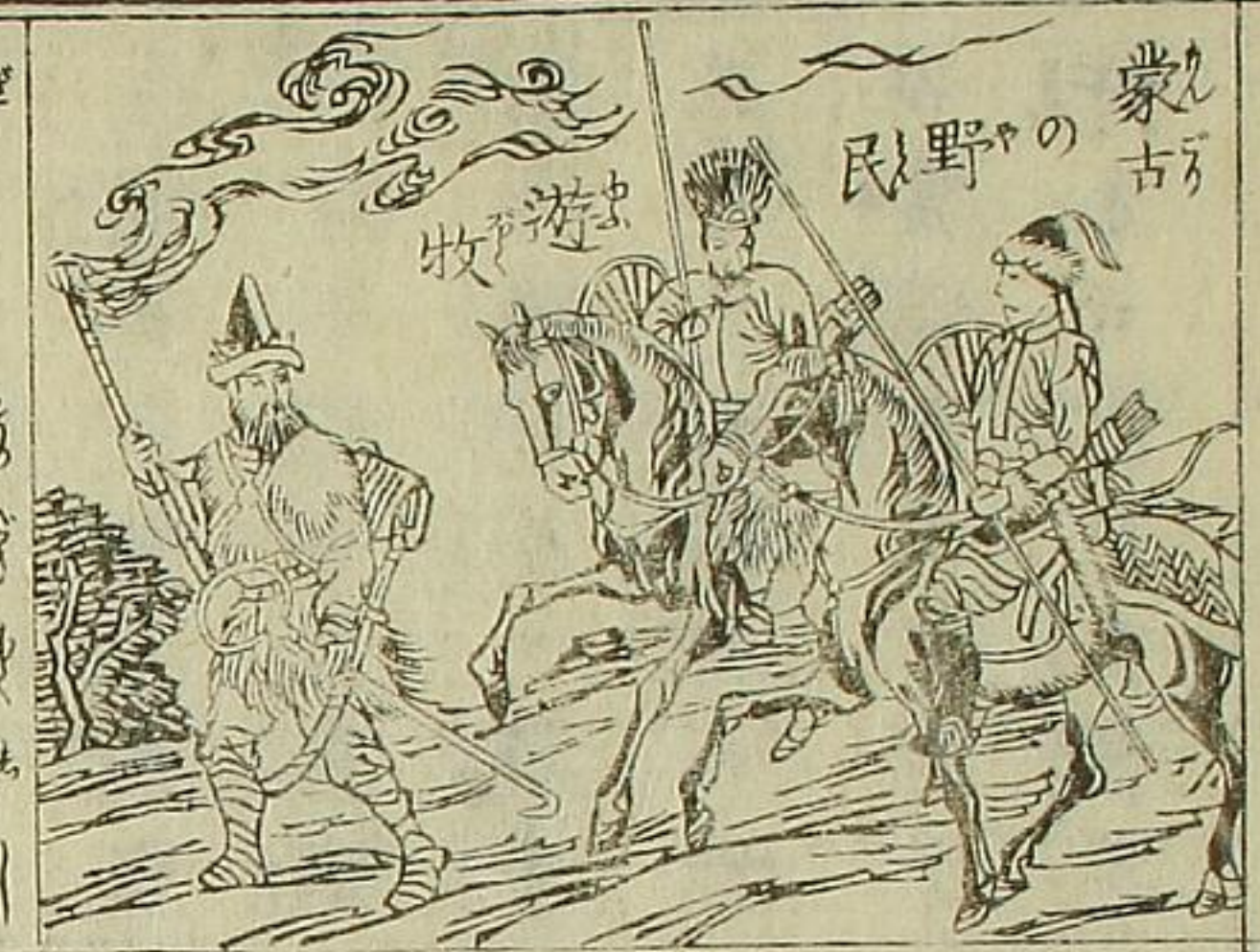
西伊犁より。蒙古の
 跨りし廣大の平原
 地より戈壁と沙漠
 漠是。東より西より
 延く。長城外より

と逐て轉居し帳幕
 と乘て拙息野蕃の
 甚るきあり蒙古の
 上古其始めと詳小
 せせと金二千餘年
 前巴小亜細亞洲の
 内地に住ひ匈奴と
 と名づけ隣国と
 侵して屢支那の地
 邊と掠め歐羅巴洲

沙漠すも内蒙古と
 稱つる沙漠と阿爾
 泰山脈の中能爾小
 在る土地を内蒙古
 と号へり部族

小入りたる事あり
 蓋し今より千五百
 年前匈奴の兵
 西の方韃靼地方よ
 り次第小魯西亞の
 内地小攻入り多惱
 河の近傍尽く燒夷
 ひたり此時の匈奴
 の首領をアツチラ
 汗と云汗の酋長の

各首長あまきと家
 を造る能近くあく
 帷幕の中より極居
 る馬肉を食ひ
 解き血沙を飲え



義かり其暴惡獅子
虎の如く人を殺す
こと草を薙小等一
く火を放ち貨を奪

逞しく。猛く勇め
る暴夷。蒙古の馬
を騎まひ。深山を
分て。獸獵。又村甲也
街坊り。恒るん安

以猶進。西洋諸
國を併呑せん。と
る猛勢。あたるべ
ら。此小於て。羅馬
と佛蘭西の。而兵カ
を合せ。漸く小して
歐土を。驅却たり。又
支那の地方。小於て
ハ蒙古の種。属次第
小。跋躡して。元の基

ま。と。片田。吉。遥。系
禮。多。倫。福。尔。府。
滿州。也。都。少。
支那の支配を。又
つ。ん。魯。日。西。亞。の。内地

業以來今の清朝の
至りて全國皆平定
する所とあるは
寒国より暖地へ侵
入るの安く寒国よ
り暖地へ進むこと
難しといへる論必
せりや野蠻兇暴の
威力を以て奕世王
業を傳ふる者少し

と貿易の諸品輸
出は買賣城守留
賀と喀爾喀一は
都府伊犁を崑崙
の南より北を魯西

らざるの地勢風土
の然らざるは因
るの歟
蒙古英雄の譜
○アツチラ汗
帖木兒
蒙古王の裔五百
年前獨立鞏固よ
り起り亞細亞の
大半を平定して

亜細亞界にして蒙古
の西にありある地方
國は北部を天山
北路南一部を支
那都尔格葉爾

七
卷一



歐羅巴及び亞非利加を震動せし人かり

○鐵水真十年前内蒙

古の内河一ラニ
エルクツク之地

羌府し支那領の西部の都是より次
降る如西亞留和蘭の二府より天山西國
乃者人常ふ注來

小生は父と也速
誼と云蒙古小部
落の酋長あり鐵
木真幼くして大
志あり年長そ
小及びて英才あ
り部下を卒し蒙
古全部を合従せ
しめ終小長城を
越へ北京を陥る

して互市の利益
を計るは北西
國を水の方山崑崙
山を押隔く支那
疆界より

古史

卷一

○廿六

此時韃靼西部の
乱るゝを聞き支
那の軍事を其部
下の將帥小委ね
自ら大兵と將
て韃靼小向以諸
邦を征し土爾其
斯坦及び比卑西
亞全國を平定し
甲加蘇地方を并

南と西を喜馬拉
の山脈つゞき印度
地不隣と東支那
本部も乾前後
を區別し地球

魯西亜の内地小
侵入り一度蒙古
小歸りカラコル
山の地小都城と
定め又大兵と將
めて支那の西北
と平げ途中小
て病小罹り六盤
山小歿を齡ひ將
小七旬小垂る其

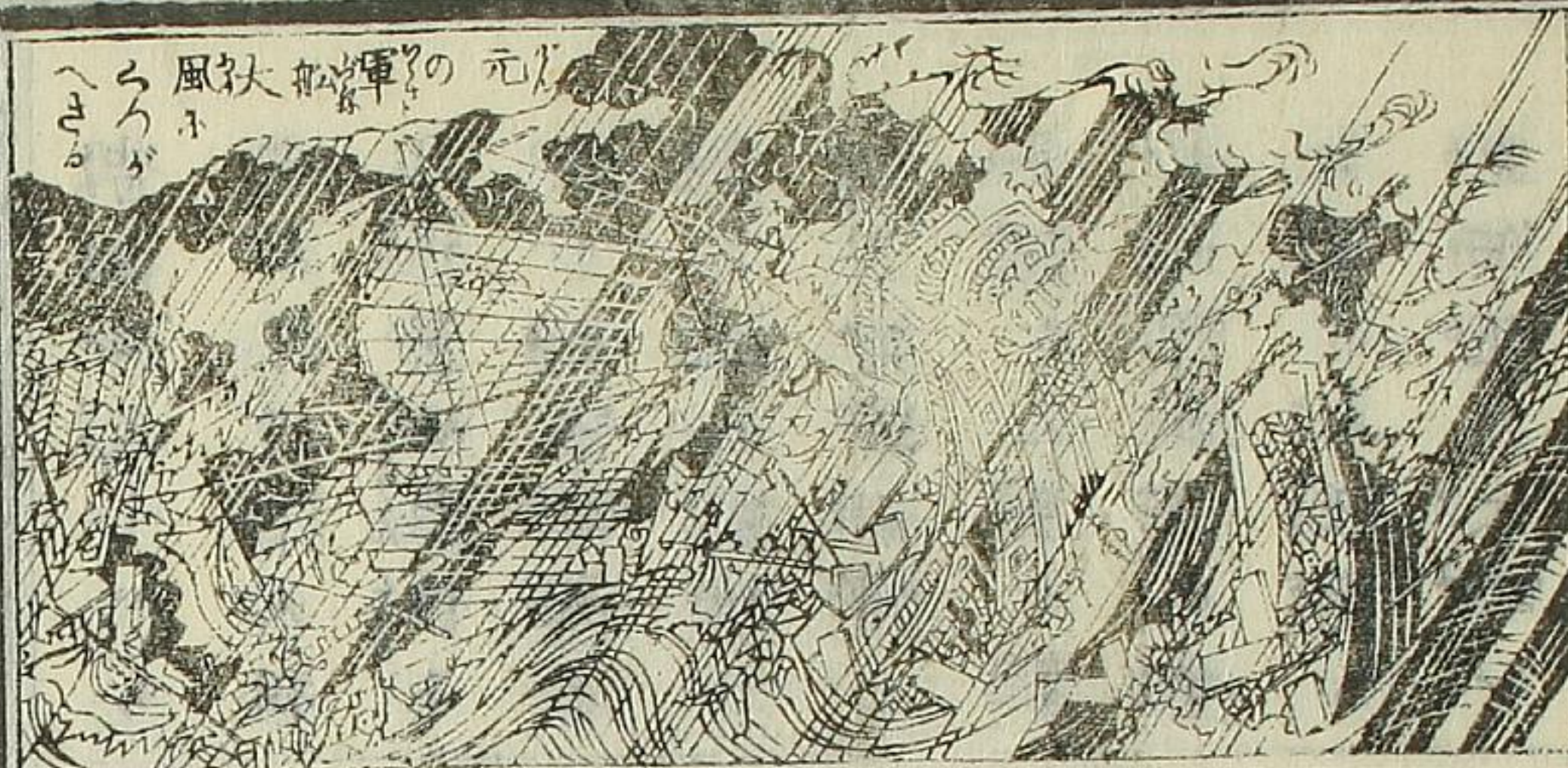
の中小夜をく高
き地面より位せらる。
海面よりいん高た
こも大凡一千二百
丈比較し論じ我

生前軍事小人と
殺すこと大略五
百万小餘ありと
云ふ
○窩閣台
則ち太祖の三子
小して鐵水真殺
すのの後位小即
き大宗と号す之
小嗣て定宗憲宗

朝の富士と墮ぶを
並ぶべし。中玉釋迦
の教法を。寄依信
向の解りも内地を
半そ借ふしと。

皆在位久しから
せよと致し太祖
の孫忽必烈位小
即く之と世祖と
号し終小宋朝と
亡し支那全國を
平定せよ兼て蒙
古大汗の位小登
る故小其版圖小
垂細垂の大略を

寺院堂塔大伽藍
夢あふく建つま
四千の僧法王を
達頼喇嘛を叫傲
まを。政務の長を



うら仰ぎ。海陀能
示現乃活佛と國民
まじめ路を造り蒙
古は人ももていと
峻嶺を踏ぐ順拜

統轄せり古今未
曾有の大領あり
世祖又舟帥と發
一日水西碣の地
と侵そと虫大風
の爲小尽く覆没
さましと今と
距る五百九十二
年前あり
伊犁又新疆と名

の雪と地と雲ふめを
里地勢峻き高き
りまきとて空とを
高きとて四阿白の
雪おろし。牙と

つぐ崑崙の南より
北の魯西亜小界
蒙古の西ある地
方と云ふ地方許多
の部落と分ち各酋
長あり支那より葉
爾着府の鎮臺と置
滿洲の將帥小命ト
軍務と督一諸部と
管轄せしむ

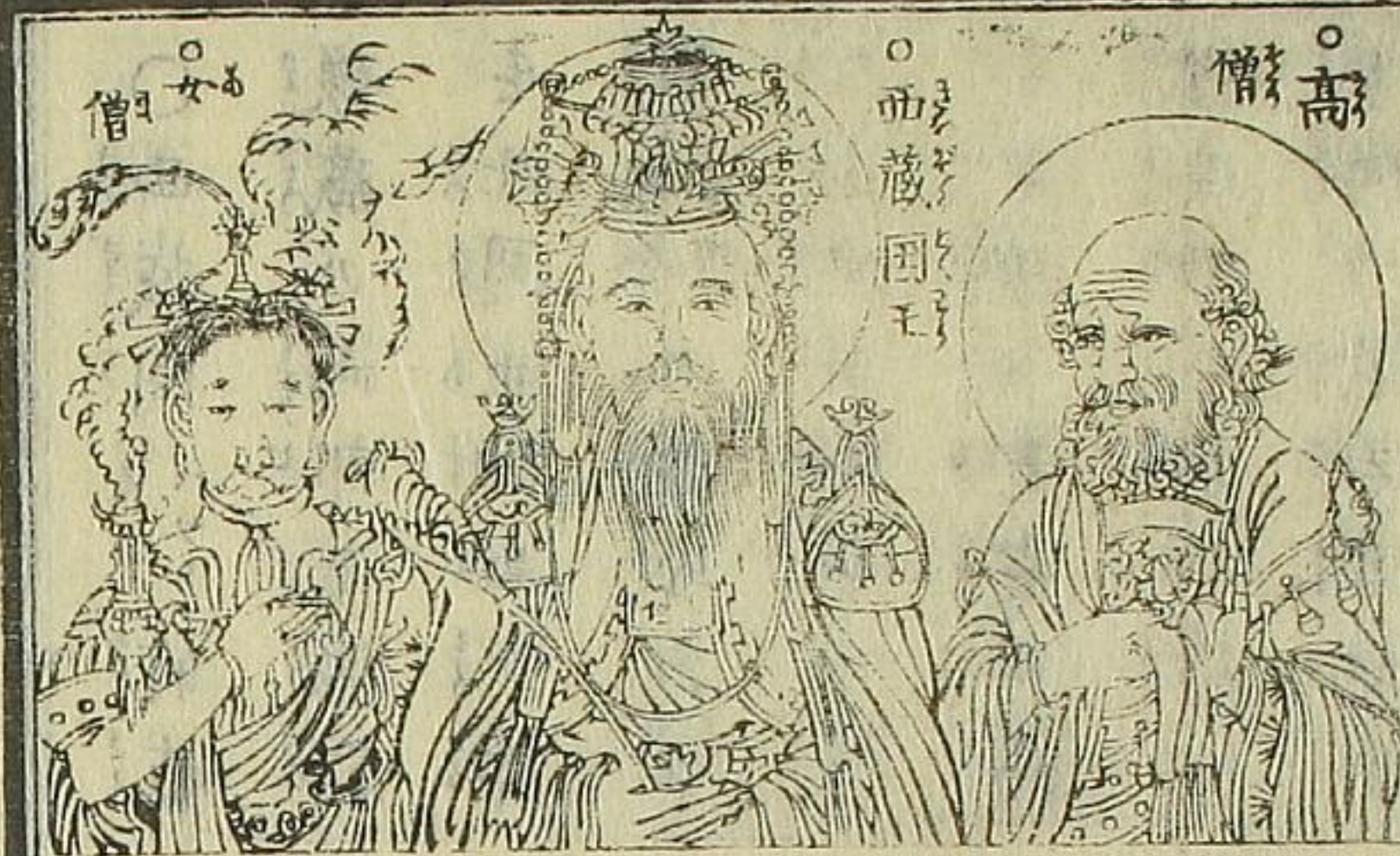
○西藏国は前藏
後藏の西部を區別
是此国を細亜中佛
教宗門の盛んある
こと他小此をべか
らば法土貴重の高
僧其外小出る時ハ
市街の老若皆地小
伏して敬禮と施を
若之を拜せざる者

獸の皮衣を穿つて
一妻一個をもち
兄弟幾個を侍
ふ交りて陋き習ひ
を猿を拉後放城

法王の宮殿及び在
留支那生屋の衛
府あり城外都を路
清く寺院の多美殊
金銀輝きこころ

世界者路
卷一

ハ嚴まじき刑さだめハ嚴まじせら
る、條ぢょう例れいあり



佛ぶつ前ぜんに。金剛こんごう寶石ほうせき
充ちゆう満まん。堂塔どうたつ珠玉しゆぎよく
を縷りゆう多たく目めを驚おどろか
す。備そなへた架か

010190534001

